

教育事例

## A校における事例研究発表会実施についての一考察 —事例研究発表会後のアンケート調査より—

伊藤希久美（信州短期大学）、矢羽田明美（信州短期大学）

One consideration about the example meeting for presenting research papers enforcement  
From the questionnaire evaluation after the Welfare facilities practice ends  
—It is thought from questioner survey  
after the example meeting for presenting research papers—

Kikumi Ito (Shinshu Junior College), Akemi Yahata (Shinshu Junior College)

**Abstract:** We perform an example meeting for presenting research papers after the institution care training end of the final stage in School A. We performed questioners' survey. We performed an example meeting for presenting research papers to the trainee who announced it after this example meeting for presenting research papers enforcement in this study and what kind of impression had. I report it about the result.

**Keywords:** Care worker, Care Student, Institution care training, Example meeting for presenting research papers

### I. はじめに

事例研究発表会の意義と目的を「日ごろの学習の成果を発表するという、発表者自身にとっての意義と目的のほかに、発表を聞く多くの学生が事例を追体験することによって、発表者・聴講者双方の学習を深めることができる。また、事例を皆で検討することにより、実践や事例を客観的に評価し、より質の高い援助を目指していく契機ともなる。」<sup>1)</sup>と、黒澤らは述べている。

A校においても、第3段階施設介護実習（2年次後期23日間）終了後に、第3段階施設介護実習で受け持ちをさせて頂いた利用者について行った介護過程の展開を事例研究としてまとめ、それを基に事例研究発表会を行っている。事例研究発表は、一人7分の発表時間と質疑応答、発表会の司会進行・記録等の運営も学生自身で役割分担を決め実施している。また、介護福祉専攻以外の教職員の参加、施設介護実習でお世話になった施設職員の方にも参加を呼びかけ開催をしている。上記に述べられているよう、施設介護実習での成果を発表すると共に、学生間での共有学習の場、また、事例研究を通して援助方法の妥当性について考え、理論・根拠を持った客観性のある介護について学びを深める機会であると考えてい

る。また、講義や、施設介護実習中で行われるカンファレンス等で自分の意見を述べる機会はあるものの、自分の行ってきた介護について理論性や客観性をもって他者に伝える機会は少ないため、文章をまとめ相手に自分の考えを伝えるよい機会であると考ええる。これらは、厚生労働省より出されている「介護福祉士資格取得時の到達目標」「求められる介護福祉士像」の中で述べられている「介護実践の根拠の理解」「基礎的な介護の知識・技術の習得」「多職種協働によるチームアプローチの必要性の理解」「チームへの参画」等、様々な点において重なるものであり、事例研究・事例研究発表会を行う意義は大きいと考える。

しかし、これらは実習担当教員側が実習生である学生に望む学習の狙いであって、講義を通して伝えてはいるものの全学生がこの狙いを理解し、高い意識を持って課題に取り組んでいるかは不明である。

そこで今回の研究においては、A校における事例研究発表会での経験が、今後の社会生活の中でより有効なものとして活かせる機会となるよう、事例研究発表会について学生の意見をアンケート調査を通して収集し、分析を行い、今後の事例研究発表会のあり方について考察をしていきたいと考える。

## Ⅱ. 研究方法

1. 対象：2008 年度第 3 段階施設介護実習における受け持ち利用者について、介護過程の展開を行い事例研究としてまとめ、A 校事例研究発表会にて事例研究発表を行った 2 学年学生 40 名。
2. 第 3 段階施設介護実習期間：2008 年 9 月 12 日～10 月 17 日までの 23 日間（早出・遅出・夜勤等の変則勤務実習を含む）。
3. アンケート実施時期：A 校事例研究発表会（2009 年 1 月実施）終了後
4. 方法：質問紙法を用いたアンケート（5 段階評価と自由記述）を実施。
5. 倫理的配慮：アンケート記入に当たり主旨を説明した後、無記名にて記入を依頼、回収を行った。
6. アンケート調査内容と回答方法：「1. 事例研究発表を行った事は良かったか」「2. 事例研究発表を体験して勉強になったか」「3. 他者の前で事例研究を発表してみても感想」「4. 介護福祉専攻以外の教職員が聞きにいらした事についての感想」について、質問項目 1、2 は 5 段階評価と自由記述、質問項目 3、4 は自由記述とした。
7. 分析方法：自由記述記載内容について kJ 法を用いて分類し、分析検討を行った。

## Ⅲ. 結果

アンケート回収率は 97.5%（学生 40 名に配布し 39 名回収）。背景は男性 9 名（23.1%）、女性 30 名（76.9%）であり、このうち「これまでに研究発表をしたことがある」と回答した学生が 2 名いた。発表の内容は明確ではない。

以下、アンケート結果を述べる。

### 1. 事例研究発表会を行った事は良かったか（図 1）

自由記述数 31 項目。22 項目（71%）が前向きな意見であり、具体的には「良い経験・勉強になった」「様々な事例が聞けてよかった」「達成感があった」「他の人の研究発表を聞いて勉強になった」等の意見が多く聞かれた。反対に残りの 9 項目（29%）については「長時間だと皆聞いていない」「（発表をする）必要ない」「（発表をする）意味が分らない」「一日集中しているのが難しかった」といった意見が挙げられていた。

### 2. 事例研究発表会を体験して勉強になったか（図 2）

自由記述数 31 項目。28 項目（90.3%）が前向きな意見であり、具体的には「研究テーマについて深く勉強することが出来た」「発表の方法について学べた」「将来ある可能性の高い事例が多くて参考になった」「自分がやった事、考えた事を文にして表すことで、勉強になった」「他の人の体験を聞くことができた」「今後に活かそう」等の意見が聞かれた。反対に残りの 3 項目（9.7%）については「一日長くて午後は眠くなった」「集中力が切れた」「みんな聞いていなかったと思う」といった意見であった。

### 3. 他者の前で事例研究を発表してみても感想（自由記述）

全記述数 52 項目で、そのうち「緊張した」が 54.7%、「良い経験になった」が 15.1%、「自信がついた」が 7.5%、「発表の大切さを感じた」が 3.8%、以下「達成感があった」「みんな発表する事は同じなので安心して行えた」と言う意見が聞かれた。また、発表時間について「7 分は短い」と言う意見と、「7 分は長い」という意見が、一名ずつ聞かれた。

### 4. 介護福祉専攻以外の教職員が聞きにいらしてくれた事についての感想について

全記述数 29 項目で「実習の中でどのようなことを行ってきたのか知ってもらい良い機会になった」と言う意見が 40%、「違う視点からの意見が聞けたことは貴重であった」が 7.5%、「興味を持ってくれて嬉しかった」が 5%、他「緊張するけどやる気が更に出了た」「熱心に聞いてくれた」などの意見が聞かれた。中には「何も感じなかった」「知識の少ない方に分るのか、また、分るような発表になっているか疑問を感じた」と言った意見も聞かれていた。

### 5. 1.2 の結果の比較（図 3）

事例研究発表会実施について「大変良かった」「良かった」と回答した学生は、発表したことに対して「とても勉強になった」「少し勉強になった」以上の評価をしている。また、「普通」と回答した学生 36% のうち 30.8% の学生が「勉強になった」「少し勉強になった」と回答している。興味深い結果として、事例研究発表会の実施については「あまりよくなかった」と回答したものの、発表を経験したことに対しては「とても勉強になった」と回答している。また事例研究発表会実施については「つまらなかった」と回答したものの、発表を経験したことに対しては「普通」と回答している。

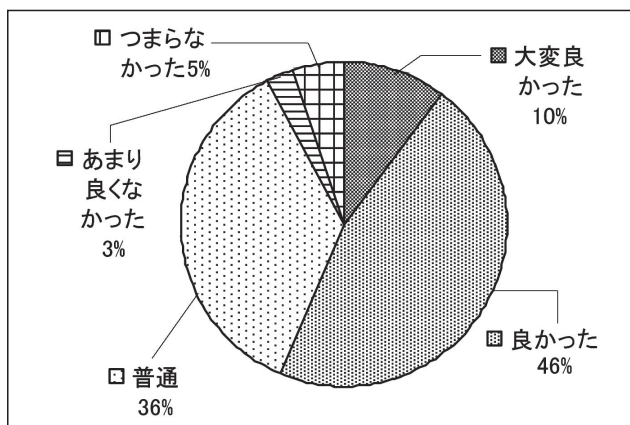


図 1. 事例研究発表を行ったことはよかったか

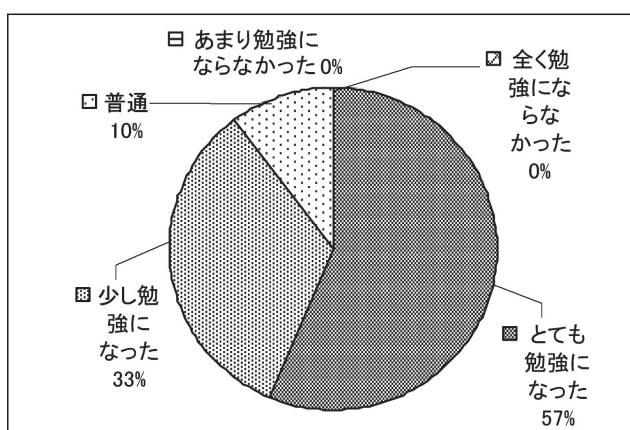


図 2. 事例研究発表会を体験して勉強になったか

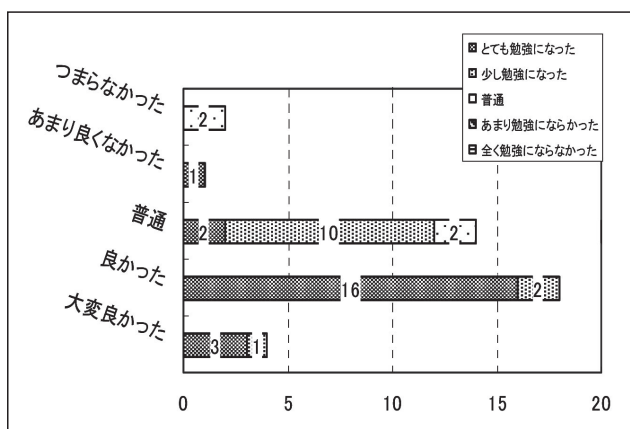


図 3. 図 1・2 の結果比較

#### IV. 考 察

図 1・2・3 より、事例研究発表会の実施に対し「良かった」以上の評価をした学生は、発表をした事に対しても高い評価を示しており、良い学習機会になっていることが伺える。逆に事例研究発表会に対し「あまり良くなかった」「つまらなかった」と回答した学生についても、

発表を経験したことに対しては「普通」以上の評価をしており、発表をしたことに対しては良い経験として捉えることが出来ていることが示されている。これらのことから、全学生が、前に立ち発表をする経験を持つ事は、今後に繋がる良い経験として捉えていることが出来ており、良い学習機会になっていると言える。今後更に良い学習機会とするためには、事例研究発表会自体に対する意義・目的意識が高まるよう指導していくことの必要性が示唆される。川延氏は著書の中で「学ぶ側の学習への主体的取り組みを引き出すこと」「表層的な浅薄な興味や関心から、それに関連させる形で新たな情報を結びつけて、その学生なりの一つの関連構造を持つ体系として実質的な重層的な興味関心に広げていくことが、興味関心を確たるものにしていく」<sup>2)</sup>と述べている。また、介護福祉士の専門性を高めていく一つの要因として、行っている介護に対する理論性・客観性を明確にしなが、連携する同職種・他職種と同等の立場で意見交換ができることが求められている。「事例研究発表会」と言う場において、他者に理論性・客観性を持って物事を伝えることの大切さ、他者の意見を聞き情報交換することの大切さを学ぶことが出来るよう、身近な話題の中から事例研究発表会に対する意義・目的を関連付け、興味関心がわくような指導が必要であると考えられる。

次に、介護福祉専攻以外の教職員が事例研究発表会に参加することに対しては、前向きに捉えている学生が多い。川延氏は「学生の教育効果を高めるためには、学生の主体性を引き出し彼らを積極的に学習へ取り組ませることが必要である。そのためには教員による学生への働きかけだけでは不十分であって、その養成教育機関の全関係者の主体性が、学生にも見えるくらいに生かされていることが必要である。」<sup>3)</sup>と述べている。介護福祉専攻以外の教職員とは授業や部活・サークル活動、行事等を通して関わる機会はあるものの、介護福祉士を目指す学生にとって最も大きな経験といえる施設介護実習そのものに関わる事はない。そのため、事例研究発表の場を通して普段とは違う姿を見て頂く事が出来たという点では良い刺激になり、事例研究発表会の場で意見を聞いたことによって、教職員の主体性を感じることが出来、学生の教育効果を高めることに繋がったのではないかと考える。

今年度の事例研究発表会にご出席いただけなかったが、施設介護実習でお世話になった施設職員の方や、卒業生の参加が増えることで、事例研究発表会への意義・目的意識が高まるとともに、より一層の学習効果が得られる



のではないかと考える。

A校では、2年間の介護福祉士養成課程を卒業した学生のほとんどが介護福祉関連施設への就職を選択し、社会に出て行く。舟島は「青年期にある人が同一性を獲得する為には『社会性の獲得』『自己の可能性と存在意義の発見』『自己の開放と受け入れ』『意思決定への試行錯誤』という学生生活における経験が関わっており、非常に重要である」<sup>4)</sup>と述べている。また、これらの経験がより肯定的な経験としてとらえられるよう助力していくことの必要性についても述べている。事例研究・事例研究発表会が、著書の中でも述べられているような、様々な経験による視野の拡大、自分自身を表現し様々な意見を聞くことにより、自分自身の考えを深めたり改める柔軟性の育成や存在意義の発見、多くの人との交流機会等に繋がる会になるよう、発達心理学的側面からも意義・目的を理解し、学生に関わる必要があると改めて感じる。

## V. まとめ

今回の研究で取り扱ったデータは、事例研究発表会直後に行ったアンケート調査のみであり、事例研究発表会を経て社会に出た後の追跡調査まで行っていないため、「はじめに」の部分で述べた「今後の社会生活の中でより有効なものとして活かせる機会としていくための方向性」を述べるには十分な材料とはいえないが、今回の結果から、今後の方向性として以下4項目を挙げる。

1. 事例研究発表会実施・発表を経験した事は、学生にとってよい学習機会となっている。
2. 事例研究発表に対する意義・目的を明確に示し、学

生が主体的に取り組めるよう指導していく必要がある。

3. 事例研究発表の構成については、今回の反省を基に検討を重ねる余地があるが、学生一人ひとりが発表する機会を持つ事は良い経験であり、今後も継続し取り組んでいくことが大切である。
4. 施設介護実習で関わる教員以外の教職員、施設介護実習でお世話になった施設職員、卒業生等が気軽に発表会に参加できるような態勢を整えていく。

今回の結果をもとに、より良い事例研究発表会の実施が出来るよ、今後も研究を進めていきたいと考える。

[投稿 2009 年 12 月 3 日、受理 2009 年 12 月 25 日]

## 〔参考文献〕

- 1) 川廷宗之：『社会福祉教授法』，川島書店，1997.
- 2) 介護福祉実習指導研究会編，『介護福祉士選書 18 介護実習指導』，建帛社，2007.
- 3) 和田要他：『ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き』，日総研出版，2004.

## 〔注〕

- 1) 黒澤貞夫 前川美智子編：リーディングス介護福祉学 19『介護実習指導』，建帛社，p131,2004.
- 2) 川廷宗之：『社会福祉教授法』，川島書店，p33，1997.
- 3) 川廷宗之：『社会福祉教授法』，川島書店，p213，1997.
- 4) 舟島なをみ：『看護のための人間発達学』，医学書院，p115～116，1995.